# ぶどう特報 ＃5

2023 年 5 月 16 日
JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

梅雨期間は主要病害感染拡大が最も心配されます。概ね 10 日間隔で定期防除を進め、散布死角が発生しないように注意してください。下草の草刈りや新梢管理による耕種的防除も有効です。

| 年度 | 巨峰開花 | シャイン開花 | 特記 |
|---|---|---|---|
| 平年 | 6/5 | 6/10 | 過去 10 年平均値（H24～R3） |
| 2022 年（R4） | 6/10 | 6/15 | 生育停滞により開花平年より遅れる |
| **2023 年（R5）** | **5/31 頃** | **6/3 頃** | **平年比△7 日程度の見込み** |

**参考：日曹フラスター液剤 HP↑**

【5 月中下旬の散布】

| | |
|---|---|
| 散布時期 | 新梢展開葉 7～11 枚目時 |
| 散布薬剤 | 水　100ℓ<br>展着剤（ハイテンパワー）　10 mℓ<br>フラスター液剤<br>シャインマスカット　50 mℓ<br>クイーンルージュ®　50 mℓ<br>種なし巨峰　100 mℓ<br>ナガノパープル・ピオーネ等　125～200 mℓ<br>有核巨峰　125～200 mℓ |
| 散布量 | ＊手散布：100～150ℓ／10a　＊SS 散布：300ℓ／10a |
| 使用目的 | 着粒増加・新梢伸長抑制 |
| 注意事項 | ①　品種により倍率が異なるため、散布前に必ず、登録内容を確認する。<br>②　有核巨峰：展着剤ハイテンパワーに代えてアプローチＢＩ500 倍を使用する。<br>③　弱樹勢の樹や若木は新梢伸長が極端に弱る可能性があるため、散布を控える。 |

品種名：＿＿＿＿＿＿
散布日：＿月＿＿＿日
散布量：＿＿＿＿＿ℓ

品種名：＿＿＿＿＿＿
散布日：＿月＿＿＿日
散布量：＿＿＿＿＿ℓ

品種名：＿＿＿＿＿＿
散布日：＿月＿＿＿日
散布量：＿＿＿＿＿ℓ

【5 月下旬の定期散布　＊共通】前回から 10 日後

| | |
|---|---|
| 散布時期 | 開花直前 |
| 散布薬剤 | 水　100ℓ<br>展着剤（ハイテンパワー）　10 mℓ<br>パレード 15 フロアブル　50 mℓ（7 日前・2 回）<br>オーソサイド水和剤８０　125g（30 日前・3 回）<br>トクチオン水和剤　125g（45 日前・3 回）<br>グリーンデイズ　等　100ｇ（※葉面散布剤） |
| 散布量 | 400ℓ／10a |
| 適用病害虫 | 黒とう病、晩腐病・灰色かび病・べと病・褐斑病・コナカイガラムシ類・アザミウマ類 |
| 注意事項 | ①　主幹・主枝・花穂（軸部）にも薬液が到達するようにする。 |

巨峰・パープル等
散布日：＿月＿＿＿日
散布量：＿＿＿＿＿ℓ

シャイン・ルージュ等
散布日：＿月＿＿＿日
散布量：＿＿＿＿＿ℓ

**8 月上旬に栽培日誌の配布があるまでは、ぶどう特報に散布日・散布量を記録し、保管してください。**

## 開花前の新梢管理について

伸長が旺盛な新梢は、肥大不足や成熟停滞等の影響が心配されるため、開花期前後に摘心を実施しましょう。

**目安時期：開花直前～満開まで　＊展葉 10～13 枚頃**

①房に養分を集中させるため、伸長が 1m以上ある強い新梢の摘心は必ず実施する
②房切りが完了した枝の先端を切除する　⇒**新梢先端を軽くつまみ落とす程度**
注意点：伸長が旺盛な新梢に対し強すぎる摘心をかけると、開花中に副梢が伸長するため注意する。

裏面：シャインマスカット房作り・黒とう病対策について記載

裏面もお読みください。

◆ シャインマスカットの房作り（果房管理）について

| | |
|---|---|
| **房切り**<br><br>作業目安：巨峰 5/25 頃～<br>シャイン 5/27 頃～ | 時期：開花 1 週間前～開花始め・満開頃<br>長さ目安：開花前 2.5～3 ㎝・満開時 3.5 ㎝<br>＊先端の分岐や軸が変形した花穂が多い場合や、未開花症状が心配される場合は、上記目安よりも長めに房切りし、予備摘粒時に段数調整・房の整形をする。<br>花穂利用順序：主穂　→　第 1 支梗　または　ショルダー（未開花対策等） |
| **1 回目ジベ処理** | 時期：満開～満開 3 日後<br>濃度：ジベレリン 25ppm+フルメット 2.5ppm～5ppm<br>⇒　水 2ℓにジベ 2 錠とフルメット半分～1 本 |
| **予備摘粒**<br>**＊段数調整･房の整形** | 時期：1 回目ジベ処理後 7～10 日後　＊粒の大小や粒のバラツキ具合・支梗の位置・房の形がある程度判明してきたら、予備摘粒を開始する。<br>ポイント<br>①　目標とする出荷規格に合わせて段数（軸長）を調整する。<br>②　房尻の形が悪い場合は、「よい房型になりそうな部分」を決めて、房尻を切り上げたり、分岐を切除したりする。<br>③　もぐり粒（下向き・内向きの粒）・極端な大粒・小さい粒・奇形の粒を中心に摘粒して 40 粒以下にする。 |
| **2 回目ジベ処理** | 時期：満開 10 日～15 日後<br>濃度：ジベレリン 25ppm　⇒　水 2ℓにジベ 2 錠 |
| **仕上げ摘粒**<br>**＊最終 35 粒程度に！** | 時期：2 回目ジベ処理後　＊果粒の肥大程度や粒の配置・房型がおおむね確定してくるので、房型を意識して実施する。<br>ポイント：肥大が進んで下や内側を向いたもぐり粒を中心に摘粒し、最終的に 35 粒程度に仕上げる。 |

## 【重要】黒とう病に要注意

梅雨期は降雨により黒とう病感染の最もリスクが高まり、花穂や果粒（幼果）への感染は商品性が失われます。ついては、過去に発生があった園地（部分）や若木の園地は特に注意してください。病斑の早期発見で被害拡大は防げます。

- 症状の確認　⇒　右写真参照
- **【葉】**葉脈上に淡褐色～黒褐色の小斑点を生じ、病斑はその後拡大し、しだいに中心部に穴が開く
- **【新梢】**淡褐色のやや凸凹した（クレーター状）病斑が現れ、しだいに範囲が広がる
- **降雨により伝染し**、葉や新梢のほか花穂・果粒・巻きひげなどの緑色の部分を侵して病斑をつくり、生長を妨げる
- 一度発生すると翌年以降も発生しやすくなる

**≪対策≫**

① 防除：10 日間隔の定期防除の徹底・降雨前を狙った防除
② 新梢管理：薬剤がかかりやすく、風通しの良い環境を作る
③ 草刈りの実施：病害の潜伏箇所を減らし、菌密度を下げる
④ 昨年発生した場所の確認：昨年の病斑が伝染源となる
⑤ 被害の確認：病斑のある枝や葉は切除し、早めに園地外へ持ち出す

特報＃6：6/1 付け発行予定。
落花 10 日後・落花 20 日後の定期散布等記載予定